

2019年2月5日
2022年8月24日改定
2024年9月1日再改定
(赤字の部分が主な改定箇所)

無痛分娩取扱施設のウェブサイトにおける 「自施設の診療体制に関する情報公開」の内容について

自施設のウェブサイトにおける情報公開の方法及び形式は自由ですが、妊産婦を含む一般の方にとって分かりやすいことに留意し、以下の項目を含むようにして下さい。ここに示す項目については原則としてすべて公開する方向で検討していただきたいのですが、情報公開を段階的に進めていただくため、当面、以下のように分類したいと考えております。

● 情報公開項目の分類：

- ① □印：施設情報
- ② ●印：標準情報
- ③ 無印：詳細情報

- 施設情報（□印）は、2018年7月から2023年3月まで厚生労働省のウェブサイトに掲載されていた「厚生労働省のウェブサイトに掲載を希望した無痛分娩取扱施設」のリストの項目です。JALAのサイト（JALAサイト）において「情報公開に積極的に取り組んでいる無痛分娩取扱施設」のリストに掲載する際の必須項目となります。
- 標準情報（●印）は、JALAとして特に重視している項目です。これらの項目については、自施設のサイトで、できる限り公開するようにご留意下さい。
- 詳細情報（無印）の中には、可能な範囲での情報公開をお願いします。
- 2018年6月に施行された医療法改正により、医療機関のウェブサイトが広告規制の対象に含まれるようになりました。詳細は、[厚生労働省のサイト](#)に掲載されている「医業若しくは歯科医業又は病院若しくは診療所に関する広告等に関する指針」（医療広告ガイドライン）及び「医療広告ガイドラインに関するQ&A」等をご確認下さい。ここで示す情報公開の内容については、ガイドラインで許容されている範囲に含まれていると考えておりますが、ご懸念がございましたらJALA事務局までお問い合わせ下さい。

- ① **勤務医師数**：産婦人科医師数・麻酔科医師数について常勤医・非常勤医に分けて示

して下さい。いつの時点の人数かを必ず示して下さい。

例)

(年 月時点)	常勤医師数	非常勤医師数(常勤換算)
産婦人科医師数●		()
麻酔科医師数●		()
合計□		()

② 分娩取扱実績[□]：複数年にわたる実績をその内訳とともに示して下さい。最低でも1年間以上の実績を示して下さい。

例)

	2016年1月 から12月	2017年1月 から12月	2018年1月 から6月
分娩件数□			
(再掲) 非無痛経膣分娩件数			
(再掲) 無痛経膣分娩件数□			
(再掲) 帝王切開分娩件数□			

③ 無痛分娩に関する対応方針とマニュアル等の整備状況：以下の項目について、分かりやすく示して下さい。

- i. 妊産婦の本人希望による無痛分娩の受入の有無[●]：医学的適応を有する妊産婦にのみ対応するのか、本人希望のみを適応として対応するのか、施設の方針を示して下さい。
- ii. 無痛分娩の導入対象[●]：無痛分娩の導入対象となる分娩について、以下の方針のうちどれが当てはまるか、示して下さい。
 - 計画分娩の場合のみ無痛分娩を実施する。
 - 原則として計画分娩を導入対象とするが、自然陣発の場合も導入の対象とする。
 1. 自然陣発の場合にも常時対応する。
 2. 自然陣発の場合は、対応できる範囲(週日日勤帯のみ、等)で対応する。
 - 原則として自然陣発後に常時対応する。
 - その他(具体的に)
- iii. 鎮痛の方法：実施している鎮痛方法が分かるように示して下さい。
 - 硬膜外麻酔実施の有無
 - CSEA 実施の有無
 - その他の方法(具体的に)

- iv. **無痛分娩に関する標準的な説明文書[●]**：使用している標準的な説明文書をウェブサイト上に掲載し、文書同意を取得しているかどうかを示して下さい。文書が改定された場合は最新の文書を、更新日を明示した上で示して下さい。
- v. **無痛分娩マニュアル**：無痛分娩のマニュアル（あるいはそれに相当する文書）があるかどうか示して下さい。ある場合は最新のマニュアルを、最終更新日を明示した上でウェブサイト上に掲載して下さい。
- vi. **無痛分娩看護マニュアル**：無痛分娩看護マニュアル（あるいはそれに相当する文書）があるかどうか示して下さい。ある場合は最新のマニュアルを、最終更新日を明示した上でウェブサイト上に掲載して下さい。

④ **無痛分娩に関する設備及び医療機器の配備状況[●]**：以下のカテゴリーごとに示して下さい。

- i. 麻酔器
- ii. 除細動器（または AED）
- iii. 母体用生体モニター（心電図・非観血的自動血圧計・パルスオキシメータ等）
- iv. 蘇生用設備・機器（酸素配管又は酸素ボンベ・酸素流量計・バッグバルブマスク・マスク・喉頭鏡・気管チューブ（配置している内径）・スタイレット・経口エアウェイ・吸引装置・吸引カテーテル等）
- v. 緊急対応用薬剤（アドレナリン・硫酸アトロピン・エフェドリン・フェニレフリン・静注用キシロカイン・ジアゼパム・チオペンタール又はプロポフォール・スキサメトニウム又はロクロニウム・スガマデックス・硫酸マグネシウム・静注用脂肪乳剤（精製大豆油）・乳酸加（酢酸加、重炭酸加）リンゲル液・生理食塩水等）

⑤ **急変時の体制[●]**：母児の救急蘇生についての施設の体制を、以下のパターン例を参考にして、分かりやすく示して下さい。

i. **原則として自施設で対応する場合**

● 母体の救急蘇生の具体的な対応方法：

1. 対応する医師

- ① 産婦人科医のみ（医療スタッフの JCIMELS 等の蘇生法講習会受講状況等を併記）
- ② 麻酔科医・救急医・集中治療医及び他の診療科医との連携体制

2. 「119 コール」等の院内緊急対応体制

● 新生児の救急蘇生の具体的な対応方法

1. 対応する医師

- ① 産婦人科医のみ
- ② 新生児科医・小児科医・麻酔科医等との連携体制

2. 医療スタッフの新生児蘇生法講習会（NCPR）受講状況等

ii. 自施設での一次対応後、他施設との連携体制で対応する場合

- 一次対応する医療スタッフの JCIMELS 等の蘇生法講習会、新生児蘇生法講習会（NCPR）受講状況
- 他施設との連携状況
 - 1. 重症母体搬送先医療機関名と搬送方法等
 - 2. 重症新生児搬送先医療機関名と搬送方法等

- ⑥ 危機対応シミュレーションの実施の有無[●]とその内容：自施設内で実施している医療スタッフによる危機対応シミュレーションの実施状況について、実施の有無について明らかにしてください。その上で、実施している場合はその内容を具体的に示して下さい。

実施している場合の例)

- 実施年月日
- シナリオのテーマ：全脊椎麻酔・局所麻酔中毒・子宮破裂・羊水塞栓症・肺塞栓症・常位胎盤早期剥離等
- 参加者の構成：医療スタッフの人数・診療科・職種構成、参加した部署の範囲等
- 訓練の具体的内容（掲載可能な範囲で）

- ⑦ 無痛分娩麻酔管理者について：「無痛分娩麻酔管理者」の、以下の項目を含む経歴を分かりやすく示して下さい：

- i. 「無痛分娩麻酔管理者」の氏名[●]：
- ii. 所有資格[●]：「無痛分娩麻酔管理者」となるためには、日本麻酔科学会認定麻酔科専門医・日本専門医機構認定麻酔科専門医・麻酔科標榜医・日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医・日本専門医機構認定産婦人科専門医のいずれかの資格が必要です。
- iii. 麻酔科研修歴及び麻酔実施歴：所有資格が「産婦人科専門医」のみの場合には、②麻酔科の研修歴、③麻酔実施歴も示して下さい。
 - 無痛分娩実施歴：実施施設名・実施期間・実施症例数（複数施設にわたる場合は、可能であれば施設ごとに示して下さい。）
 - 麻酔科研修歴：研修施設名[●]・研修期間[●]・指導医名・全身麻酔経験症例数・硬膜外麻酔経験症例数を示して下さい。

- iv. **麻酔実施歴**：実施施設名[●]・実施期間[●]・全身麻酔実施症例数・硬膜外麻酔実施症例数（複数施設にわたる場合は、可能であれば施設ごとに示して下さい。）
- v. **講習会受講歴**：所有資格が「産婦人科専門医」のみの場合には、以下の講習会の受講歴を示して下さい。
- 「安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上のための講習会」（JALA カテゴリーA講習会）の受講歴：
 - 「産科麻酔に関連した病態への対応のための講習会」（JALA カテゴリーB講習会）の受講歴：
 - 「救急蘇生コース」（JALA カテゴリーC講習会）の受講歴： JALA では、J-MELS ベーシックコース、PC3、ACLS、ICLS をカテゴリーC講習会に相当するコースとして認定しています。講習会の名称を示して下さい。
- ⑧ **麻酔担当医について**：「麻酔担当医」の、以下の項目を含む経歴を分かりやすく示して下さい。複数の医師が麻酔担当医となる場合には、それぞれの医師の経歴を示して下さい。
- i. 「麻酔担当医」の氏名[●]：
- ii. 勤務形態[●]：常勤か非常勤かを示して下さい。
- iii. 所有資格[●]：「麻酔担当医」となるためには、日本麻酔科学会認定麻酔科専門医・日本専門医機構認定麻酔科専門医・麻酔科標榜医・日本産科婦人科学会認定産婦人科専門医・日本専門医機構認定産婦人科専門医のいずれかの資格が必要です。
- iv. **麻酔科研修歴及び麻酔実施歴**：所有資格が「産婦人科専門医」のみの場合には、②麻酔科の研修歴、③麻酔実施歴を示して下さい。
- 無痛分娩実施歴：実施施設名[●]・実施期間[●]・実施症例数（複数施設にわたる場合は、可能であれば施設ごとに示して下さい。）
 - 麻酔科研修歴：研修施設名[●]・研修期間[●]・指導医名・全身麻酔経験症例数・硬膜外麻酔経験症例数を示して下さい。
 - 麻酔実施歴：実施施設名[●]・実施期間[●]・全身麻酔実施症例数・硬膜外麻酔実施症例数（複数施設にわたる場合は、可能であれば施設ごとに示して下さい。）
- v. **講習会受講歴**：所有資格が「産婦人科専門医」のみの場合には、以下の講習会の受講歴を示して下さい。
- 「安全な産科麻酔の実施と安全管理に関する最新の知識の修得及び技術の向上のための講習会」（JALA カテゴリーA講習会）の受講歴：

- 「産科麻酔に関連した病態への対応のための講習会」(JALA カテゴリーB 講習会)の受講歴：
 - 「救急蘇生コース」(JALA カテゴリーC 講習会)の受講歴： JALA では、J-MELS ベーシックコース、PC3、ACLS、IGLS をカテゴリーC 講習会に相当するコースとして認定しています。講習会の名称を示して下さい。
- vi.
- ⑨ 無痛分娩に関わる助産師・看護師について：無痛分娩に関わる助産師・看護師について、以下のような情報を示して下さい。
- i. 無痛分娩研修修了助産師数
 - ii. 無痛分娩研修修了看護師数
 - iii. 看護師・助産師の中での NCPR 資格保有者数[●]
 - iv. 看護師・助産師の中での「救急蘇生コース」(JALA カテゴリーC 講習会)の受講歴を有する者の人数： JALA では、J-MELS ベーシックコース、PC3、ACLS、IGLS をカテゴリーC 講習会に相当するコースとして認定しています。講習会の名称、受講人数を示すようにして下さい。
 - v. 安全な麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上を図るため、関係学会又は関係団体が主催する講習会 (JALA カテゴリーD 講習会) の受講者数：講習会名・受講者数・受講年月日を示して下さい。

【無痛分娩研修修了助産師・看護師の要件とは】「無痛分娩の安全な提供体制の構築に関する提言」では、無痛分娩研修修了助産師・看護師の要件は以下のようなものです。現時点では「無痛分娩研修修了助産師・看護師」の認定の仕組みはありませんので、該当する助産師・看護師数については、それぞれの施設で判断するようにしてください。

- ・有効期限内の NCPR の資格を有し、新生児の蘇生ができること。
- ・救急蘇生コース (JALA カテゴリーC 講習会) の受講歴を有していること。
- ・助産師についてはアドバンス助産師相当の能力を有することが望ましい。
- ・安全な麻酔実施のための最新の知識を修得し、ケアの向上を図るため、関係学会又は関係団体が主催する講習会 (JALA カテゴリーD 講習会) を2年に1回程度受講すること

- ⑩ 日本産婦人科医会偶発事例報告・妊産婦死亡報告事業への参画状況：以下の事業への参画状況を示して下さい。
- i. 日本産婦人科医会偶発事例報告への参画の有無[●]：最終報告年月日を含む
 - 日本産婦人科医会偶発事例報告事業では事例がゼロの場合も報告が必要とされています。ここでは偶発事例の発生の有無に関わらず事業に参画している

かどうか、という点について示してください。

ii. 妊産婦死亡報告事業への参画の有無【●】

- 妊産婦死亡報告を実際に行ったかどうか、ではなく、妊産婦死亡が発生した場合、妊産婦死亡報告事業に参画して報告する意思があるかどうか、という点について示してください。

⑪ ウェブサイトの更新日時【●】：無痛分娩に関連した情報公開の内容は、随時更新して最新の情報を示すようにし、情報の最終更新日を明示するようにして下さい。

JALA 事務局
公益社団法人 日本産婦人科医会事務局内
E-mail:info@jalasite.org